十二月八日　夕刊

常磐毎日新聞

日曜祭日の翌日休刊

定價一部金貳錢一ケ月金五拾錢郵稅五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢

發行兼編輯人印刷人　川崎文治
發行所　常磐毎日新聞社
福島縣石城郡平町長橋町三五
電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

陣中想出話（九）

平町出身
歩兵第廿九聯隊第三中隊　水野重光

▼九月十五日の笑事

十五日の午後二時少し過ぎ吉長線孤店子と云ふ或る小驛に到着しました。此所より聯隊は二列車に分乘し吉林に向ふ命令があり、我等第一小隊は大行李の來るを待つて第二次列車にて出發する事に命令せられ、小隊長殿の指揮にて驛の片隅に行つて、一名の監視兵を立哨させ、其の他の者は休憩をして居りました。すると某兵が何を見たか、ニコ〳〵わらひながら驛員宿舍の方へ急いで行つた、すると間も無く大きな一つの南瓜を持つて來た『君腹がヘッタ……宿舍を借りて煮て食ふ』と云ふので、丁度時間も在るし、空腹を感するので好チャンス。『宜しからう』と話しが纏まり早速宿舍を借り煮南瓜班が組織された。すると又一方より某兵が青豆を枝のまゝ擔へで來た『オツ君、に豆をやるのか』と云ふと某兵平氣で『君の方でに南瓜班を組織したから僕の方ではに豆班を組織して食ふ』と云へ大笑をした。其處で兩班にて煮初めた……もう少しで兩班ともにあがる頃、第一小隊集合と呼ぶ聲が聞いて來た、それ集合だ、早くやれと云ひ合つたが、間に合はない。仕方が無い少し位にへ無く其持つて行かふと云ふので、最も迅速に南瓜は飯盒に、青豆は手拭及ハンカチに包んで集合した集合し終つて小隊長殿の云われるのには『我等一小隊は第二次列にて行くわけであつたが、都合上第一列車にて出發する事に成つたから速に乘車せよ』と命令せられ一同は南瓜を入れた飯盒と青豆を包んだ手拭を下げて我先にと乘車した。列車が走り出して『オイ、君僕が南瓜を出すから、君はにまめを出せよ』と兩方から出し合ひ、其所で南瓜にまめの會食が始まつた。處が其所へ某士官が來て。やあ……皆甘い事をやり居るなあ—俺にも一株混ぜろと笑聲をあげながら、一株混つてばく付いた。短時間に仕上げた僕等の內しよの作業の會食にて、大勢寄合つて談笑しつゝ一時の空ふくを凌いだ。間もなく我軍用列車は夜の吉林驛ホームへとすべつた。

ノート

アスパラガスの食べ方は、時と場合にもよりませうが、元の方を三ツ指で摘んで食べて差支ありません、凡そ先の方を半分頃まで食べて、あとは皿に殘します。

夕闇が迫つてゐるのに

根本總司郎

生垣と塀と林その中
の空地が庭球コート
夕闇が周圍より迫つてゐるのに
今四五人がボーンと言ふラケットの音に
チームされて飛び廻つてゐる
何も彼も忘れて
紅の燒雲の一層
森より昇つた光の無い月が
ちぎれ雲の樣だ
汽車が出たばかりの田舍驛は
夕闇につゝまれて人氣がない
ポーと汽笛が流れて來た
白いシャツが消えさうなラインを踏んで
夕闇があたりにたゞよつて來たのに
又飛び廻つてゐる

◇又々ウチワ豫約期が來ました◇

明年のウチワは諸掛りのかゝる他方町よりは注文しても追加しても何れの点からも御客樣本位の本店に御用命下さい。製品は大丈夫自信があります……

◇平乙女の腕で出來上る町產品◇

山久團扇店
平紺屋町局前
電話(呼)四〇九番
……〔部仕奉〕……
菓子壜硝子器豐富在庫

七五三祝着陳列

子供服
オーバー
帽子
ショール
流行ショール
綿・毛メリヤス・その他
特價賣出し
…12月6日ヨリ…
…12月10日マデ…
ツルヤ
平四電四〇一

三河產業博覽會
昭和產業博覽會
金牌受賞
かまぼこ製造
儀式用
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
吉原蒲鉾
電話一四一番

七三五子供服大賣出

お嬢樣お坊ちやまの可愛らしい御祝用子供服子供オーバーを種々取揃へ店頭に陳列して御座ひます

女兒服
色セル　二・一〇ヨリ
ビロード　二・三〇ヨリ
男兒服
スコッチ　一・九〇ヨリ
茶セル　三・四〇ヨリ
男女柄オーバ　二・〇〇ヨリ
メルトンオーバ　二・六〇ヨリ

ふかやや洋服店
平電二三〇

良い寫眞！
最新式設備
新しい技術
寫眞館　サクラ
平町田町驛通り前

磐城共濟病院案內
院長　醫學博士　石山謙郎
自宅（電話二二四番）

內科　醫學博士　石山謙郎
小兒科　醫局員　佐久間粹
外科耳鼻咽喉科　醫學博士　桂重次
皮膚科　醫學士　有馬勇二郎
產婦人科　醫學士　五十嵐雄二
醫局員　佐久間粹
醫學博士
X光線科　技師　工藤慶造
醫學博士　石山謙郎
衛生試驗所　技師　高後利雄
藥局（藥劑士）　吉本孝平
◎診療時刻午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず
平町　磐城共濟會
電話六四一番

郡下産米豫想

平年作よりも減少

荒れ日後の天候が惡化して

石城郡神谷農事試驗分場では昨日産米の收獲豫想調査を行つた結果反當り二石三斗三升で平年作の收獲二石五斗四升四合に比較し二斗四合餘の減收を見る由であるが是れは本年二百十日前後は氣溫雨量共に良く豐作を豫想されて居た處其後の氣溫惡化し雨量多く發熱作用を防げられたり稻の倒伏等頻發の爲めであると

貧困者數を調査

同情週間の贈り物に

平町役場及び共濟委員助成會では既記の如く來る十三日より十五日迄の三日間を同情週間とし助成會員各區長、青年團等が協力し市内各戸を訪問して寄附を募り同情袋を貧困者に贈る事になつたので町役場では貧困者數の調査中である

助成會へ

寄附を申出

平町古鍛冶町山崎清三氏は母堂故タケ子刀自の遺志により本日平町共濟委員事業助成會に二百圓の寄附を申し出たが、同く仲町阿瀨喜代志同ヨシノ兩氏も五圓宛の寄附を男出た

競走遊戯

第三校で大會

平第三小學校にては來る十四日午前十時より同校體育部主催の下に各種競走遊戯大會を開催するが役員は審判長赤津校長を始め指揮員新家、審判員矢代、長谷川林、吉田、準備員花澤、石田、引卒員蛭田、遠藤、古河、渡邊、看護員橋本、吉田、鈴木、天川の諸訓導にて當日の呼物と目される各學年代表選手リレーの出場兒童は左の如くである

△男子（二年）小野寺輝夫　坂本五郎　志賀篤　鈴木

金・金・金・金……

足搔く人の子

眼の色も變る今日此頃

歳晩の一シーン

年の瀨を前に國民の九八%を占める恒産のない階級が一齊に動員されて『この際額の多寡はとも角つかめるたけの金をつかまふ』ばかり悲壯な戰線が展開される借金の重壓にうめき上に渴えバンに憧れ、文字通り飢餓戰上を彷徨してゐる、さうした人々がこの

年の瀨を　控へてたとへ五十錢でも一圓でもつかまもうとあせつてゐるのだこの頃になると行人の目の色も變つてゐる、決してほがらかに空を眺めて歩く者などはゐない、云ひ合はした樣に下を見て歩く、何か紙包でもあると逃しつこはない、必ずポント蹴つて見る、チエツト舌うちをするとゝろで今や正に

金價暴騰　黄金狂時代だ、されどこれ迄は餘り目に付かなかつた金緣の眼鏡や金鎖が妙に目に付く、それらを持たぬ人々の目色がどれもこゝも掬摸の目の樣色に見える……、まさかそれ程でもないが、とに角にもあざましい歳晩の限りである。『あらあなた質舗から

流失通知　が來ておりますよ、あの金時計を流しちやつたつて……』『何んてけしからん奴だ、昨日今日の客じやあるまいし、そんな薄情なやり方つてあるか、殊にこれまで一ケ月や二ケ月期限に遲れたつて流した事がないじやないか』『私に喰つてかゝつても仕樣がありませんわ』『金が騰つたので賣拂つて儲けやうてんだ、畜生ッ、實に非道極まる、よしどうしてくれるか覺えてゐろ』とばかり妻君の頭をポカリトやる樣な

悲活劇が　到る處に見られる樣になつた、無産者の生活苦、年越し難の地獄繪の樣な巷ではあるが、そこでも搾取魔の手は決して容赦ない、閻魔樣の樣な借金取がぞろ横行し始めた。

社頭の『千歳飴』

七五三の祭日に

子達に配る祝物

來る十二月十二日は舊十一月十五日に當り七五三の祝日である處から産土神である縣社子鍬倉神社の社頭に可憐な男女兒の參拜に依つて人形市の樣な賑々しさを呈するが特に本年は當日二丁目なかや洋服店主自から數名の居員を指揮して社頭に起ち一々參拜の兒達に『千歳飴』一袋宛を御祝儀に配る由であるから子供達は大喜びであらうと

豚コレラ學術調査

二村技師來郡

農林省獸疫調査所技師二村彦次郎氏は今夕平着列車にて來平、過般郡下に流行した豚コレラの學術的調査を行ふ事になつた

實業補習教育

振興會の研究

石城郡實業補習教育振興會第三區農業教育研究有は來る十二月十二日午前十時より飯野村小學校に於て開會農業科に就いて研究を行ふと

商工業の

實際指導研究

昨夜の第三回研究會

既報平商業學校卒業生指導第三回商工研究會は昨夕午後七時より庶民金庫樓上に於て開かれ武川教諭の商品券取締法に就いての講演あり爲替の騰落商店法、インフレーミヨン其他實際營業上の質疑應答をなし午後九時半閉會したが出席者は三十餘名にて頗る盛會であつた因に第四回研究會は來月十七日開く豫定であると

作業訓練徹底

平第二小學にては昨日午後一時より職員會を開き人月は作業訓練の徹底及び事務整理に努力する事を協議したと

農産品評準備

石城郡神谷村農會では本月廿日頃農會事務所に於いて農産品評會を開催すべく目下委員七名を擧げて準備中

平町物價

白米	一等	一七〇
	二等同	一六五
	三等同	一六〇
白麥	一升	九〇
平麥	同	一二五
味噌	一貫目	五〇〇
醬油	一升	三五〇
清酒	同	一〇〇〇
木炭	楢丸	一八〇
	楢割同	一五〇
	雜丸同	一六〇
砂糖	白	百匁
	赤同	一六〇
豚肉	上同	三〇
	並同	二〇〇
牛	上同	四〇〇
	並同	二五〇

平映畫界

▼平館　三四篇「怪人の襲撃」日活時代劇澤田清吉野朝子主演暴「風の佐渡へ」子供映畫「馬鹿八と城主樣」日活現代劇入江たか子小杉勇主演「母三人」

▼世界館　新興キネマ時代喜劇實川延松主演「彌次喜多再興」新興現代劇高津慶子歌川八重子主演「南地囃子」新興時代劇雲井龍之助　松浦築枝主演「身代り紋三」

平町二丁目
三井タクシー
電話六八五番

磐中校長と同窓會幹部

けふ更らに會見

代表山崎清三氏語る

生徒亂打事件に依り奮起した同窓會幹部は昨報の如く昨夜マルトモホールにて評議委員會を開き橋本校長の

回答を 中心として種々凝議する處あつたが其結果評議員會の代表山崎清三氏及び關内諸橋同窓會正副會長は本日午後十二時半更らに學校に出頭橋本校長に面會

母校の 刷新改革に關し互ひに處信を披瀝する處があつた右に關し山崎氏は語る

『今日の會見は私共卒業生が母校を思ふの餘りから出でたものであつて勿論問題が惡化したのでもなければ紛糾が熾烈となつたという樣な譯ではない、要するに問題が圓滿に落着さへすればよい事であつて、生徒等も充分に自分等の氣持ちをのみ込んで居ると思ふが、學期末の事でもあるから吾々の動きを一々氣にする事なく側目をせずに勉强を勵んで貰い度いと思ふ』

頭割事件は

亭主の感違ひか

殺す氣との申立

昨報石城郡内郷村大字御厩字上宿日雇業荒川淺治郎（四七）は妻ヨシ（三七）が同村下野居住東海林五郎（三七）と怪しい仲と思ひ東海林の頭部にスコップで重傷負した事件は其後平署高橋

司法主任 が加害者の妻ヨシを嚴重に取調べた處ヨシと淺次郎の間には十九才を頭に八人の子供が有り事件の當夜ヨシは被害者方に御詠歌會の月掛金を集金に行き就寢中の被害者の枕元で交渉中に淺治郎が見付て不義と感ひ違ひ自宅に駈戻つて薪割を持出し一擊を加へんとしたが隣家の者に

押止めら れたので被害者方のスコップを揮つて東海林に重傷を負はしたのであるが加害者は取調べに對し殺意有つた旨を申述べて居る爲め殺人未遂として送局された樣模である

取立金横領

告訴され逃亡

平町四丁目六番地米穀商飯島亥之松（四六）は石城郡神谷村大字中神谷字石ノ脇鈴木某を相手取り横領の告訴をなしたので平檢事局で取調べを行ふため鈴木に對し呼出狀を發した處行衛を晦し出頭しないので警察署に對し捜索方を命じたが事件の内容は飯島は鈴木と學校時代の同窓生の所から信頼し貸金取立の依頼をなした所取立金及び裁判費用として渡したる金員を横領費消したものであると

妻を尋ねて病死

遺言に依り捜索願

殘された二兒に同情して

大阪から平署へ

宮城縣栗原郡津乘毛村生れ鈴木吉太郎（三九）は妻コイシ（三五）との間に長男喜一（一四）長女カツ（一〇）次男順一（八ツ）を抱へ福岡縣早良郡姫濱炭礦で稼いで居るうち本年一月妻は

他の男と 共に長男喜一を連れて行衛を晦して了つたので吉太郎は其後殘された二兒を連妻を尋ねて各地に放浪中先月一日大阪市で病の爲めに行路病者として同市弘濟會に

收容され たが間もなく妻は最近福島縣石城郡下の宮澤炭礦に居るらしいとの言葉を殘して死亡したので殘された二兒に同情した弘濟會では宮澤炭礦に居るコイシの捜査願を平署に本日送附し來つた

娘十八

誘拐さる

母親の捜索願

石城郡内郷村字鬼ケ澤三居住磐城炭礦撰炭婦吉田フミノ（一八）は去る三日何人かに誘拐されたらしく行衛不明となつたので本日母親キンより平署に捜査方を願出た

列車妨害

十六日に公判

既報石城郡勿來町大字四譯字向二十九番地農秋元道政（三二）及び同村字長塚二十一番地秋本富重方雇人疊職鯉淵秋云助（三七）の兩名が共謀し本年七月二十八日午後八時頃錦村大字中田常磐線鐵道線路に枕木其他を積み重ねて列車の妨害を爲した列車妨害事件の公判は來る十六日午前九時より平支部に方て中島裁判長係り關口竹内兩判事陪座小林檢事立會官選千葉辯護士列席の上開廷されると

入遠野の組頭

石城郡入遠野消防組頭後任選定申の處今回同村助役櫛田武美氏が就任した

平驛頭にて

英靈を慰む

平在郷分會其他諸團体にては明日今回の滿洲事變に於て戰死せる相馬郡高平村歩兵上等兵小林良猪君の遺骨が平着午後十二時五十五分の磐越線にて同く今回の事變に出動中病氣となり廣島衛戍病院にて死亡せる双葉郡双葉町野村野砲兵第二聯隊砲兵上等兵故吉田武夫君の遺骨は午後四時四十五分下り列車で夫々通過する爲めホームに出て哀悼の意を表し英靈を慰むると

平裁判たより

△樺太榮濱郡榮濱村目下住居不定無職窃盗詐欺前科三犯川部定吉（三八）が去る二日午後四時頃平町字月見町飲食店白土ムメ方に於て一圓三十五錢の無錢飲食をなした上座敷にあつた黑ラシャ外套一着價格十八圓を窃取逃走したる窃盗事件の公判は本日午前九時より平區裁判所に於て關口判事係り小林檢事及び吉田書記立會の下に開廷事實の訊問があつた

△双葉郡長塚村字新町二番地魚行商古室傳（三一）は本年六月二十三日午後八時頃双葉郡新山町志賀重次方に於いて外數名と共に花札を使用し賭錢博奕をなし賭博罪として罰金三十圓に本日平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

△既報茨城縣鹿島郡波崎町秋刀魚漁船稻荷丸乘組員糸川金次郎（二四）に對する傷害致死事件に付明日平發午前九時で平支部荒井豫審判事及び上田檢事は淺野書記と共に犯人同道實地檢證を行ふと

明日の子供

九日

天氣豫報

今晩も明日も北の風小雨模樣

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 お話しと讃佛歌お話「お釋迦樣のお證りのお話」國安泰嶺讃佛歌五曲北陵日曜童園々兒ピアノ伴奏 鈴木幸四郎

▼後七、三〇 國際時局特別講座其三「總會に移れる日支問題」法學博士

▼後八、〇〇 少女歌劇「十津川少女」 寶塚少女歌劇月組生徒

▼後八、三〇 忠臣藏花暦第八ラヂオドラマ「忠義」劇團東京

▼後九、三〇 滿洲より通報 全國ニュース 氣象 番組豫告

明日の部

▼前九、一〇 料理献立 宮城縣食肉協會

▼前一〇、三〇 家庭講座「盆栽の買方選方」中松諒三

▼後〇、〇五 掛合噺「三段返し」月廼家孝之輔外お はやし連中

▼後二、〇〇 婦人講座「デパートを通して見た各國の國民性」山本秀太郎

▼後五、〇〇 受驗講座「漢文」塚本哲三

▼後六、〇〇 子供の時間 童話劇「達谷窟」HK子供會

▼後七、三〇 國際時局特別講座（其四）「日支問題に對する各國の輿論」國際聯盟協會主事赤松祐之

▼後八、〇〇 放送映畫劇「隱密七生記日」活時代劇部

▼後八、四〇 俚謠「博多節」お秀外

▼後九、〇〇 忠臣藏花暦第九「和洋合奏」富士絃管樂團

平職業紹介所報告

回 人を求める方

△雜夫 五十以下 委細面談（平町水道課）

△豆腐賣子 四十以下 尋卒賣上の二割（平町某）

△紡績女工 二十三迄 日給一圓二錢 高卒（双葉郡某工場）

回 職を求める方

△出前持 二十三才 高卒 給料面談（平町某）

△鍛治職 十六才 高卒 給料面談（磐城村某）

△豆腐賣子 五十八才 高卒 讀書し得 給料面談（新潟縣某）

△雜夫 十八才 高卒 給料面談（平町某）

繁藏新語

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演

近藤紫雲畫

第二百十八席　平手造酒

一同笹川を立退く

繁藏始め一同は一時笹川を立退く事にしたが先立つは金、何程あるかと女房に云ひ付けて調べさせると四十三兩二分、これでは不足と云つて急場の事なれば何處へ行くとも直には貸すまい三兩や五兩ではないどうしても百兩は要る繁藏もこれに就いては頭を痛めた、すると勢力富五郎が

富『親分、私達は一文なしでもその土地の俠客を便れば丁寧な取持を受けその上出立する時には五兩や十兩の草鞋錢はくれませう、して見れば旅へ出ればとて困るやうな事はありませんそれに引かへ下の者はそんな事は出來ませんから之には不自由をせぬ様に相當な金を持たせてやらねばなりますまい』

繁『イヤそれで俺も心配してゐる』

富『私が金の都合をして來ませう、まア任しておくんなさい』

繁『どうか賴む、何とかしてくれ』

富『承知しました』

そこで萬歳村の住居へ歸つて來ました富五郎一人房はおりきと云つて松波善兵衛と云ふ清瀧村の名主の娘です

富『おりきや、今度急に金の要る事が出來たに就いて阿父さんに無理を賴むつもりだが聞いてくれるかな、イヤ是非聞いて貰はねばならねえ』

りき『さうですねえまア行つて賴んで御覽なさい、お前さんには惚てゐるから貸てくれるだらうと思ひますが』

富『では行つて見るかな』

と是から清瀧村の善兵衛の許へ出て來た八十石も田地を持つてゐる豪農です

善『だれが來たか、ウム富かさアさ此方へ來なせえ』

富『御無沙汰いたしました』

善『イヤ無沙汰はお互のことだ、何せえ秋の藉り入れで忙しいでな』

富『さうでございませう今日上りましたは御迷惑をお願ひ申す爲に』

善『ホ、オどんな事だ、お前は渡世柄に似合ぬ堅い性質で今まで何かあつても俺に厭なことを聞かした事はねえ、のう是れ舅舅となつて見ればどんな相談にも乘らねばなんねえ、それを今まで何一ッ俺に相談を打つた事はねえが迷惑をかけるとはどんな事だの』

富『ヘイ急に金が要る事が出來まして』

善『何だ金か俺は又もつと面倒の事さと思つたに金かな、何のくらひいるのだ』

富『左樣でございます、まづ百兩もありますれば私の男が立ちます、と申すは阿父さんも御承知の通り、飯岡と喧嘩を致しました一件に就て一時親分始め私共も此の地を立退く事にいたしましたそれに就て若い者には相當な小遣ひを持たしてやらねばなりません』

善『ウムさうだの』

富『さうするには何うしても百五六十兩はいりますいま親分の手許にあるは僅か四十三兩二分、之れでは不足で御座います誠に濟まぬ事では御座います百兩拜借致したいので』

善『ウムさうか、百兩でよいか、他の物とは違ひこれば かりは餘計あればとて邪魔になる物ではねえ二、三千兩持つて行つたらよからう』

富『それはとんだことで何も金を撒爲に旅をする譯では御座いませんからそんなには要りません』

善『さうか、では二百兩持つて行け、他の外では相談に乘らぬ事もあるが金の事ならば恥はかゝさねえ』

と云ひましたが、大した舅があるものでこれは特製の舅この方は十五錢高いそれは化粧品の事

善『これ金を持つて來い二百兩小粒で持つて來い』

二分金一分銀をまぜて持つて來たさアこれを貸てやる

富『そこでお斷りして置きますがお借り申した所で私共は旅に出る者今夜にも役人に捕へられゝ兩江戸へ送られ八丈か三宅島又佐渡へやられる事も御座いませうさうなると借りた此金をお返し申す事も出來ません』

善『馬鹿な事を云ふなわれは俺を見そこなつたか、二百兩や三百兩の金を舅に貸てそれを返せなぞとそんないやらしい事は云はねえぞ邪魔になる金があつたら持つて來う、其になわれが居なくなつては娘一人で困るだらう歸つて來るまで俺が預かつて置くぞ』

富『ヘエ、有難う御座います』

富五郎は善兵衛の情を喜び二百兩持つて繁藏の許に來てさア是丈け借りて來たと其を見せた、

酒場戰線異狀あり

カフエーセカイの
ダブル　ウルトラサービス
御來店の皆樣にモレナク
紫煙の香ゆかしきバツト奉仕進呈
平一　カフエー世界　電46

旭硝子株式會社製品
赤菱印　板ガラス
◈菓子壜
◈硝子食器
其他各種
製造販賣
松崎硝子製作所
平町新川町（電話一四二番）
仙臺市榮町（電話五九七番）
◇支工場

高級貸切……
不二タクシー
電・32

古原醫院
平町田町
電話一一四番

お醬油は……ヤマフル
醬油味噌
たひら正宗
鰹節食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町【電話營業部一〇醸造工場三】
明治生命磐城代理店　山崎與三郎